

# 担い手との意見交換の実施状況について

平成30年3月30日  
公益財団法人福島県農業振興公社  
(福島県農地中間管理機構)

平成29年度に当機構と担い手との意見交換の概要については、下記のとおりです。

記

## 1 実施期日等

月日	場所	出席した担い手
平成29年8月31日	県庁本庁舎	県指導農業士会長、県青年農業士会長、県認定農業者会長、うつくしまふくしま農業法人協会会長、県稲作経営者会議副会長、県果樹経営者研究会会長
平成29年11月20日	会津若松ワシントンホテル	県認定農業者会役員及び会津方部認定農業者会会員
平成29年12月4日	県農業総合センター	県指導農業士会役員、県青年農業士会役員
平成29年12月4日	穴原温泉 花の瀬	県稲作経営者会議会員
平成30年1月25日	飯坂温泉 聚楽	県果樹経営者研究会会員
平成30年2月27日	磐梯熱海温泉 華の湯	県稲作経営者会議会員
平成30年3月27日	磐梯熱海温泉 華の湯	認定農業者会会員

## 2 担い手から出された主な意見

- 担い手への集積を進めるためには、白紙委任で公的機関が介在した方が進むと思う。併せて農地所有者の意識改革（農地を貸したら返ってこないものと思われる、誰誰には貸したくない、など）が必要。
- 土地柄、白紙委任を進めにくい地区もある。
- 農地の貸し借りに関する相談窓口が複数あり、一本化が必要なのでは。
- 農地利用集積円滑化事業との整理が必要なのではないか。
- 相続放棄された農地を何とかできないか。
- 米どころはやる気のある農業者が多いので、農地の取り合いになり、担い手への集積は進みにくい。
- 農地中間管理事業に係る賃借料の変更手続きがもっと楽にならないか。
- 耕作地に小区画が多いので、基盤整備が必要と感じていた。機構関連事業は正に待っていた政策。